

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300288		
法人名	株式会社 イー・ケア		
事業所名	グループホーム イー・ケア中里		
所在地	静岡県富士市中里172-7		
自己評価作成日	平成25年2月22日	評価結果市町村受理日	平成25年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2292300288-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2292300288-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日一日を楽しく有意義に過ごしていけるように支援しています。その為にはどうしたらよりよいケアができるかカンファレンスを通して話し合い、実践に努めています。外出や買い物、ドライブ、軽体操、お手伝い、役割等個人の思いや出来る事を見極め支援していけるよう努めています。一日一日を楽しく有意義に、また安心して過ごして頂けるよう支援しています。生活の中で個々出来る事や得意分野、役割を見つけ生活する力となれるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を常に頭に置き、職員は細かいことでも気づくと話し合い、申し送り時やカンファレンスを通して職員同士のコミュニケーションを取り、協力したケアが行われている。時間を決めずに、毎日、行ける時に散歩・外出を行い、その人の生活スタイルを見ながら、その人らしくゆったり過ごせるよう、また一日1回は職員と共に笑うことが出来るよう支援している。昼食時に職員が一緒に食事を摂っていないのは、食事摂取の安全、行き届いた見守り・介助に専念することであり、それにより交代で職員の休憩が確実に取れるシフト体制がリフレッシュし、後半の介護に専念出来ている。基本的な研修、指導から、またキャリアアップの研修等あり職員の介護職に前向きな姿勢と意欲が伺われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をいつも目に届く所に掲示し各々共有し実践に繋げている。また、職員からアンケートをとり、マニフェストを作成し、それに基づき支援を行っている。	理念は以前の管理者が看護師、ケアマネジャー・職員とで、どのような介護をしたいか出しあい、高齢者の権利擁護に対する考え方、その人らしい暮らしの支援方法、食事を楽しむ等マニフェストを作成している。年2回職員評価やアンケートを行い理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員の集まりにご挨拶に伺ったり、事業所のイベントに地域の方をお招きしたり、また招いて頂いたり交流を図っている。	地域から文化祭や体育祭の案内を頂き、入居者と見学に出かけている。地域の人や子供たちの参加で餅つき大会と地元高校のバザーを行った際、入居者が店番を受け持った。小3年生が福祉の学習体験に来訪し入居者と交流し、昼食持参できた子供たちと一緒に楽しく食べた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括の職員の方と一緒にご家族や地域の方を招いて認知症サポーター養成講座を開催した。今後も継続して開催していく予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議であがった評価や意見等真摯に受け止めサービスの向上に生かしているよう職員とともに取り組んでいる。	民生委員や市・東部包括支援センターの職員・弁護士、司法書士、オアシス在宅介護支援センター、家族、入居者の参加で2ヶ月に一度会議を開催、入居者の近況、活動報告後各自意見を出して頂いている。弁護士や司法書士の視点から、また市職員から教えて頂くことがある。	開催された会議内容の報告はブログで公表しているが、出席者に限らず、出席できなかった家族や関係者全員へ報告書を送付したり、職員にも内容を知らせ共有しサービスの向上に繋げる事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席頂き、助言やご指導を頂いている。また、問題事項や疑問点等ある際は連絡をし助言を頂いている。	不明な点は電話をし、丁寧に教えていただいている。入居者の施設移動や住宅改修書類上の手続きや業者とのやりとり等また問題が生じた時には相談し助言を受け協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のカンファレンスや職員会議で事例があがると皆で話し合いを行っている。また、職員会議内でも勉強会を行っている。	入社時に研修を受け、全職員が身体拘束の具体的な禁止行為は理解出来ているが、ケア事例の中で曖昧な判断が生じる事もあり、随時指導を行っている。事例があがるとその場かその日の内に検討。ヒヤリハットに記入する事で職員の見直しとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議内で事例等あげながら勉強会を行っている。		

静岡県(グループホーム イー・ケア中里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネージャーが研修等に参加したり意見交換を行い知識を習得できるよう努めている。今後の職員会議内で勉強会を行い職員全体で意識していけるよう図っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に重要事項説明書の内容について説明し、疑問点等ないか確認をしながら行っている。契約書の説明も同様に時間をかけながら説明を行い、疑問点等残らないよう契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関先に設け、気軽に意見等投函して頂けるようにしている。また、家族が来所された際、声を掛け利用者や家族の思いを届けてもらえるよう心がけている。	意見箱や、運営推進会議案内状を往復はがきで出し、返信で意見・要望を受けている。外部へはブログで情報を発信し、情報を受けている。家族の訪問時には日々の状況を伝えている。又 認知症を受け入れられない家族の不安や希望を理解し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の法人内の管理者会議を行い、それをもとに職員会議を通して意見や提案を交換し、それをまた管理者会議にて報告し話し合いをしている。	非常勤も含め、全職員の意見や提案・希望を兼ねた自己評価を年2回提出を設けている。イー・ケア中里を良い施設にするにはどうした良いか、意見を出し合っている。又、新しく決まったことや提案等職員に意見を求め反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として年2回の人事考課を行い、個人の評価を行っている。それに伴い個人面談を行い個々の強みを伸ばし主体性を持って働けるよう支援している。有給休暇や希望休をとりやすいよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修の案内を職員が把握できるようにし、希望者は参加している。また、個人面談を行い、個々の強みを伸ばせるよう、不得手な個所を補えるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し情報交換に努めている。また、地域ケア会議や地域ケアマネ研修会に出席し交流と勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式のアセスメントを利用し、本人と向き合いながら思いを理解できるよう努めている。日々のカンファレンスや職員会議で意見交換を行い情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前の面談の際に本人や家族の希望、生活歴、環境等じっくり伺い少しでも安心して頂けるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活歴、環境等伺い、グループホームの特徴をいかしながら本人の出来る事ややりたい事ができるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人や家族の要望を伺い職員同士話し合いながら本人が自己決定できるおうよりよい生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態や生活の様子等お伝えしながら家族の方と一緒に協力しながら支援できるように行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・友人等気軽に訪問して頂けるように努めている。また、地域のイベントや外出を通して馴染みの人や場所との関係を継続できるよう努めている。	車中から見るだけでも入居者は喜ぶので、ドライブに出かけた際は遠まわりでも自宅近辺や馴染みの場所を通るようにしている。ホーム内では出身地近くの方同士の会話の場を設けたり、家族訪問時に他の入居者との会話を依頼し、だんだん親しくなり馴染みの関係が築かれてきた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共同で一つの物を作成したり、皆で楽しめるレクリエーションや外出、日常生活を行う事によりお互いが支え合い補えるよう支援に努めている。		

静岡県(グループホーム イー・ケア中里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族や担当ケアマネージャーに様子を伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や今までの生活歴等本人や家族から情報を頂き、職員で話し合い本人主体の生活が出来るよう努めている。	センター方式に似た方法で本人や家族の希望を聞いたり、会話をしながら出てきた事を職員は共有している。日々職員同士で話しあい、気づきを申し送りノートに記入し目を通し捺印している。困難な時にもその都度話し合い、全職員が入居者主体のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前の面談時や利用後本人や家族から情報を頂き、職員間で情報を共有でき支援できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントを活用し日常生活や心身状態を把握し、カンファレンスを通し職員同士で情報を共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いと生活に合わせて職員間で話し合いながら介護計画を作成している。カンファレンスの際には職員を始め家族も一緒に、時にはドクターや看護師の意見等も交え報告を兼ねてよりよい生活支援を検討している。	日常の申し送りや小さな意見また変化のある度に職員間で話し合い、カンファレンス・モニタリングを行っている。往診時にはケアマネジャー・家族も一緒に立ち会うこともあり、身体状況の把握、意見や報告を交えて、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化や日常の様子、ケアについて個別記録に記入し、それぞれ介護記録を確認している。また、記録をもとに日々のカンファレンスや申送りを行い、次のケア計画にかせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能型居宅が併設してある為、行き来をしながら交流を図っている。また、状態の変化等に応じ、他職種と連携を図り意見交換や助言を行っている。		

静岡県(グループホーム イー・ケア中里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを依頼し交流を図っている。また、地域のイベントへの参加や学童の先生方、児童達と交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診を始め個々の定期受診等対応している。	入居者全員がホーム協力医の月2回の往診を受けているが、特別科目受診は家族の付き添いが基本だが職員は出来る限り付き添い、家族や協力医へ報告し、受診記録や申し送りノート、介護記録に記入し職員は目を通し、くすり変更等に気をつけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がそれぞれの状態を把握し健康管理を実施している。介護職員が気付いた事を報告したり、看護師から介護職員へ指導や助言を行い状態の把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	往診医と常に連携を図りながら状態を往診日以外にも医師や看護師に報告をしている。体調不良等受診が必要な場合、早急に対応できるよう連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、ターミナルケアについての事業所の方針や取組み、事業所で出来る事等説明をし本人・家族と話し合いを行っている。	入居時にターミナルケアについて説明をして、書面上でも取り交わしている。協力医との夜間連絡や急変時の連絡はとれるが、入居者が急変したことがあり、ロールプレイの必要性を感じている。早急に緊急時の対応や連絡手順等のマニュアルを作成し訓練を予定している。	早急にマニュアルや連絡網を作成し、緊急時に備えて焦らずに対応出来るように、また心の準備が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で急変時や事故発生時に備えての訓練を行い、いざという時に冷静に判断できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練計画に基づき利用者と一緒に訓練を行っている。	2月に火事を想定した訓練を実施したが、地域の協力は無い。今後地震を想定した訓練を行う予定であり、消防署や地域の人と一緒にやりたいと準備中である。食糧、水、紙オムツ、パットの備蓄は四日分用意しているが、備蓄の増加や近くの職員順の連絡網等早急に作成する予定である。	災害時の詳細な避難マニュアルの作成と、地域との協力体制を早急に進め、色々な災害を想定した避難訓練を実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアする上での基本的な事でありそれを徹底できるよう職員同士助言を行っている。	排泄時は周囲の目に注意し、入浴時や動作に移る時等声かけの言葉使いに配慮している。入室する時はノックし入室の許可を得ている。居室は中から鍵が掛けられるようになっていて、掛けていた居室があった。見守りの必要な方の扉を暖簾にする事を家族や向かいの入居者の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように声かけ等に配慮している。また、思いや希望を伝えられる雰囲気を作れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合ではなく、利用者主体の暮らしを提供できるようケアを行っている。また、よりよい支援を提供できるよう職員同士で話し合いを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや外出の際の洋服選びは本人にもしくは一緒に行っている。男性のひげそりも声かけをし整えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや食器並べ、テーブル拭き、食器洗い、食器拭き等準備や片づけの役割分担があり、出来る力のある方に依頼している。	外部からの決まったメニューの為、苦手な物や、硬い物等は変更できるが一人ひとりの好みの選択は困難である。普段は食事の下準備等役割分担が決まっているが、月に1回の手作りランチが実施され、お好み焼きやピザ等好みのメニューで全員一緒に調理を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算塩分量把握等されバランスのとれた食事を提供している。食事量、水分摂取量を個々に記録に取り、状態が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に声かけをし口腔ケアを行っている。また、食前に口腔体操を行っている。		

静岡県(グループホーム イー・ケア中里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で記録し、個々の状態や排泄パターン等把握している。介助や声かけが必要な方には利用者に沿って行っている。	家族と話し合い、本人の不安を考慮して無理に行っていない。排泄記録で排泄パターンを掴み、声掛けや、必要な方の排泄誘導、及び介助を行い利用者に沿った排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体操や散歩等には十分配慮し、自然な排便ができるよう心がけている。また、便秘気味の方は特に注意を払っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	混乱を招かないよう入浴日を決めているが、個々の入浴方法やタイミング等職員で情報交換し、快く入って頂けるよう支援している。	週に3回の入浴としている。全員の入浴をスムーズに行えるように入浴日は決めているが、その日の状況や気分に合わせて変更している。同性介助や職員の選択も自由に受け入れ、融通のきく時間帯で無理なく入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルを把握し、安心して眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の薬剤情報を確認できるよう保管している。薬が変更になった場合副作用の観察も行い記録に残し医師に報告できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴やもっている力を活かせるよう役割等職員で話し合い実践し生きがいのある生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、外出等個々に支援している。	天気の良い日には散歩にでかけている。外出は全員は無理なので一日3回に分け、買い物も個々に支援し、ドライブで馴染みの公園や商店街を回ったり、花見などにでかけている。地域や家族と協力して出かける事はないがお墓参り等は家族が支援している。	

静岡県(グループホーム イー・ケア中里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金のお預かりは行っていない。買い物が必要な時は家族に予め確認をし、立替をして一緒に買い物に出かけ選んで頂いている。もしくは、職員が代行して購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合職員が手伝いながら行っている。手紙もいつでも出したり受け取れたり出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間であるリビングは窓が大きく明るい日差しが入り心地よく過ごせる環境である。季節感を感じる利用者の作品を飾ったり装飾を施している。	共有空間は明るく、食堂と居間を家具配置で分けている。壁には季節感のある入居者の作品が飾っており、入居者は作品を見て笑顔で会話をしていた。ホーム自慢の広々としたバルコニーでお茶を楽しんだり、富士山や高速道路の景色をながめている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のイスという決まった場所だけでなくソファやこたつに自由に腰かけたり一人になれる場所を提供し落ち着いて過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具や必要なもの、思い出の品や仏壇・お位牌等本人にとって必要なものや使い慣れたものを持参してもらい、その人にあった部屋作りを行っている。	使い慣れた家具や、家族の写真、家族との思い出の楽器や品物・仏壇や本等使い慣れたものが置かれている。居室で好みの読書をされている方が以前コーラスに行っていたと得意な歌も歌って下さった。本人らしく心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、廊下やトイレ、浴室等手すりを設置し安全で自立した生活が送れるよう支援している。		